

前回の振り返り(各委員から出た意見)

(1)子どもの意見表明・参加について

- 日常の中で子どもの意見を聴くときは、家族会議などの改まった場面で聴くだけではなく、日常の中で子どもから出てくるつぶやきや思いを拾い上げて聴くことがとても大切である。
- 子どもの意見表明・参加の意義として、「大人の良かれという思い込みやズレに気づくことができ、そこから効果的な支援につなげることができる」ということが考えられる。
- 子どもに意見を聴く際の心構えや留意点として、「中断しても、何ら子どもが不利な状況に置かれることがない」と考えられる。
- 新区役所の区民スペースの愛称募集が行われているが、こうした取組を子どもに対してもしっかり周知するなど、機会を捉えて子どもをパートナーとして参加させていくということが大事であると思う。
- 学校で外部の講師を招いた授業が行われた際、子どもが授業の様子を生き生きと伝えてくれた。こうした参加型の授業は子どもにとっても良い刺激となり、意見も引き出されていくと感じた。
- 子どもの権利に対する理解が必ずしも十分でない大人に対するアプローチとして、勉強会を行う必要がある。さらに、そういった大人を巻き込んで、子ども参加の意義を感じられるような子ども参加を実践してみることで、権利に対する認識を浸透させていくことが重要であると思う。
- 普段行われている行事や企画、学校の休み時間での一言など、大人が子どもの意見を拾える場面はたくさんあるが、拾う側の大人の受け止め方にはスキルが必要になると思う。
- 子どもと一緒に何かを実践したり、同じ時間を過ごしたりするなど、子どもが参加していくことにより変わっていく姿を実感できる機会をつくることが大事であると思う。
- 道徳の授業は、子どもが安心して自分の意見を話すことができる場であり、まさに子どもの意見表明を守る場であるため、道徳と子どもの権利をつなげていくことが大事ではないか。

- より多くの子どもたちが自分の持つ権利を知り、意思表示や参加ができるようになるためには、学校の授業の中で取り入れていくのが良いと思う。
→子どもの権利に対する理解が十分でない大人であっても、学校を拠点として学べるような機会ができると少しハードルが下がったり、参加する機会も増えたりするのではないかな。
→学校の負担になることがないよう、外部リソースを使うことも含めて検討してほしい。権利委員会としても協力したい。
- 子どもが意見表明・参加できる範囲はできるだけ小さいところから始めるのが良いと思う。最初は家庭になると思うが、学校や地域など、できるだけ子どもに身近なところで何か工夫ができないかと思う。
- 子どもの権利について、カードゲームなどを活用して理解を深める機会を作ること、自分の意見を持っていたとしても出しづらい子どもや、障害のある子ども、外国ルーツの子どもなどについても意見を表明しやすいのではないかと感じた。
- 子どもの意見を聴くことについては、子どもオンブズマンの果たす役割も大きいと思う。
- 子どもに情報を届ける手段として、iPadを活用した情報発信が考えられる。
- 子どもが意見を表明しやすい環境づくりでは、大人が表情にも気をつけることや、きちんと子どもと向き合って話すこと、少ししゃがんで視線を合わせて同じ目線で話すことなども考えられる。
- 周りの大人自身が意見表明・参加をしていなければ、子どもは安心して意見表明・参加に取り組みにくい。大人自身が日頃から意見表明・参加に取り組んでいる姿を子どもに見せることも大人としての責務であると考える。
→「子ども参加」を特別扱いするのではなく、子ども含めた区民がきちんと参加できる環境を整えることが不可欠だと言える。
- 相談したり、悩んでいることを吐露したりするにしても、安心して話せる人だという実感がなければ、子どもは話すことができない。そうした人と日常生活の中で出会い、交流できる場や機会が求められている。
→異年齢・多世代との日常での出会いや交流の機会が必要である。
- 「意見を聴く」ということだけではなく、まずは、そうした意見を大人や社会が「受け止める」ことも大事だと思う。そして、「意見や思いを受け止める」ことの大事さに理解を示す機会が必要である。
- 意見を「言う」という直接的な表現よりも、「意見を表明する」「意見や思いを伝える」などの表現の方が良いのではないかな。

(2)子ども会議について

- ハイティーン会議の様子を子どもの権利委員会の委員も知ることができれば良いと思う。
- 子ども会議を区役所で開催するだけでなく、「出張子ども会議」といった形で地区ごとに開催したり、テーマを決めた子ども会議をスポットごとに開催したりすることで、より子ども会議が地域に浸透していくのではないかな。
- 子ども会議においても、子どもにヒアリングするときと同様に、いきなり意見を聴こうとするのではなく、子どもがリラックスできて、話しやすい環境づくりを行う視点を盛り込むことも大事である。
- 子どもの意見を実現させるためには、会議を運営する予算だけではなく、提言を受けて実現させるための予算を用意し、その予算の範囲内で実現を図ることも考えられる。